

『シブヤフォント 大和田アートコネクト2023』 実施報告書



SHIBUYA
FONT

Supported by
日本
財団
THE NIPPON
FOUNDATION

2023年6月10日
一般社団法人シブヤフォント 坂本

目次

1. 実施目的と提供価値
2. 実施要領
3. なかよしぐるーぷのアート活動
4. 実施報告
5. まとめ



なかよしさん作品：④障団連作品展 2021ぼくのgototラベル

1. シブヤフォントアートコネクト実施目的と提供価値（共通）

実施 目的

シブヤフォントのアートをきっかけに、渋谷区地域住民の方々に福祉施設や利用者を知ってもらい、地域交流に繋げる

提供 価値

for 渋谷区エリア在住の方々

・福祉施設や障がい者アートとの出会い、新たな気づきの提供

for 福祉施設 & 施設利用者

・渋谷区地域との交流機会、シブヤフォントアート活動、施設、利用者を地域の皆さんに知ってもらう機会

皆さ

for シブヤフォント

・渋谷区エリアの地域の皆さんに、シブヤフォントを知ってもらう機会

for 渋谷区

・区民D&Iの啓発と、子どもたちの福祉教育の機会提供

1.シブヤフォントアートコネクト実施目的と提供価値(大和田)

実施目的

シブヤフォントのアートをきっかけに、渋谷区の障害のある子供たちと地域住民、シブヤフォント参加事業所(障害のある大人とこども)との、交流の場、相互交流の機会をつくる。

提供価値

for 渋谷区エリア在住の方々

- ・福祉施設や障がい者アートとの出会い、新たな気づきの提供

for 福祉施設&施設利用者

- ・障害のあるこどもたちとの交流機会、シブヤフォントアート活動、施設、利用者を当事者
- ・支援員・保護者・関係者に知ってもらう機会

for シブヤフォント

- ・渋谷区内障害のある子どもたちとふれあい活動領域をひろげる。

for 渋谷区

- ・区民D&Iの啓発と、子供たちの体験機会創出、子どもたちの福祉教育の機会提供

2.大和田アートコネクト 実施要領

名称

シブヤフォント 大和田アートコネクト ～シブヤフォントアートを楽しみつながる～

参加者・ 福祉事業所

渋谷区放課後デイ なかよしぐるーぷ(渋谷区西原)学齢期の利用者(10名予定)・支援スタッフ(6名予定)保護者(見学参加を募る)

下記日程に利用者アーティストと参加可能なシブヤフォント参加事業所

日程&プロ グラム

DAY1:2023年2月23日 13時～14時半 (はりこアートワーク)

DAY2:2023年4月4日 13時～14時半 (シブヤフォント対話型アート鑑賞会)

DAY3:2023年5月4日 13時～14時半 (タペストリーアートワーク:合同)

場所& 実施内容

大和田シブヤフォントギャラリースペースを活用し全3回の様々なアートワーク、ワークショップを通じ渋谷区の放課後デイサービスを利用する障害のある子どもたち、放課後デイスタッフ・保護者とシブヤフォントと参加事業所の利用者、ボランティアが交流。アートコネクトで制作した作品は大和田ギャラリー常設展示、また5月のシブヤフォント笹塚アートコネクトでも展示発表を行う。

運営

一般社団法人シブヤフォント
ボランティア

3なかよしぐるーぷでのアート活動

なかよし 大久保さんより

絵を描く事については、一人で始めから終わりまでできる子もありますが、そうでない子は

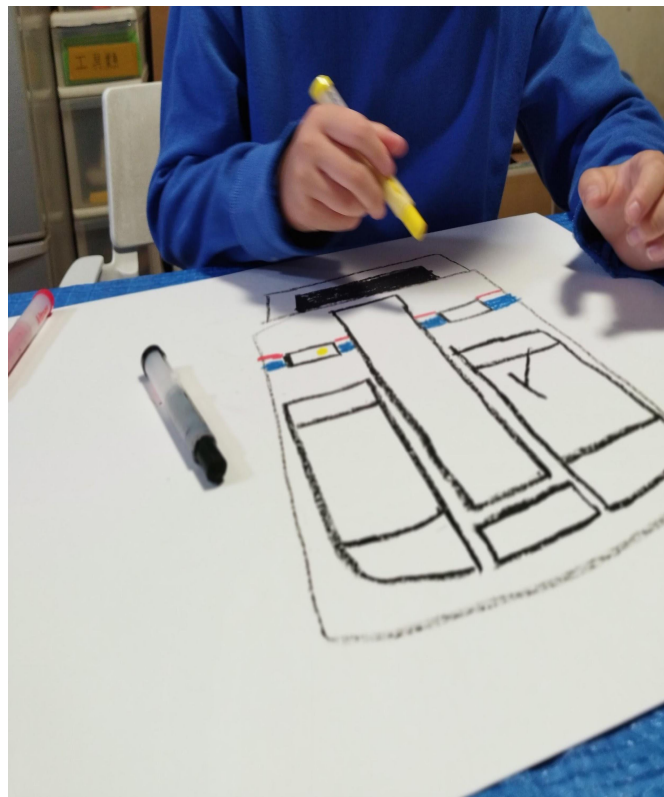
- ①ぐるぐる自由に色塗りが得意な子
- ②ペンで線画が得意な子(線は書くが色は塗らない派)
- ③塗り絵が得意な子(色は塗るが線は書かない派)

に分かれていたりします。

写真で紹介させていただいた、動物や電車や魚のイラストも線だけ書く子や色だけ塗る子などが分業したり協力して完成させる事が多いです。

ぐるぐる自由に描くのが好きな子は、書いてもらったものを切り抜いて作品に使ったりしています。

普段はかぎられたスペースで活動しているので広い場所で自由なアート活動ができるといい。



3なかよしぐるーぷでのアート活動

『どきどきときめき展』

毎年12月に開催される、渋谷区障害者団体連合会作品展『どきどきときめき展』(渋谷区文化総合センター ギャラリー大和田)に今年も参加しました。今年の作品のテーマは「なかよし ♡ すいぞくかん」です。デイサービスの子どもたちとOBメンバーの力もかりて、大きな水族館を作りました。



絵を描くのが得意、色を塗るのが得意、みんなで力を合わせ、素晴らしい作品が出来上がりました。



みんなで海の色に染まりながら、絵の具を使いました。

図鑑や絵本をみながら、海の生き物を一生懸命に描きました。ユニークでカラフルな海の仲間がつつぎと生まれました！



通常のアート活動の状況ヒアリングしたうえで大和田でのアートワーク内容を企画検討。

どきどきときめき展、オンラインで開催中！



段ボールのフレームを絵具でペイント！ローラー使用も軽やかに、素敵な色合いに仕上がりました。葉っぱは和紙やアルミホイルで装飾して立体感を出しました。みんな楽しみながら集中して取り組みました。高さ190cmオーバーの特大サイズ。フレームの切り抜きはスタッフ総出で頑張りました。

2021年はオンラインのみで開催された、渋谷区障害者団体連合会作品展『どきどきときめき展』。2021年の会場展示は、無事終わりました。会場にお越しいただいた皆さま、ありがとうございました。オンライン展示は1月22日まで開催。こちらもぜひご覧ください！

第29回どきどきときめき展

〈オンライン展示〉12/16(木)-1/22(土)

<http://www.shibushoren.org/dokidoki>



製作のようす



×切間近！
オンライン投票
おねがいします！！

るとき、
した。

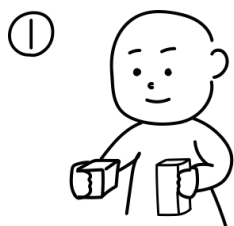
4実施報告 DAY1: はりこアートワーク内容

ワークショップ名：シブヤマチツクリ

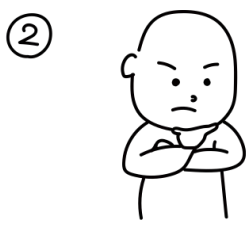
三角や四角の形をしたはりこを用いて、参加者に「渋谷の街」をイメージした、色付けを行ってもらう。

考えてるイメージを平面ではなく、立体のはりこに色付けを行うことで、より具体的で自由な家・ビル・施設・街並みをつくる。

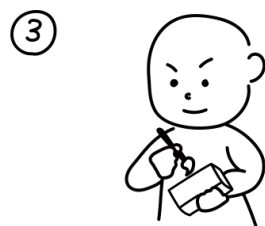
作った後は参加者全員のはりこを並べ、ミニチュアの「渋谷の街」を表現、意見交流の場を持つ。



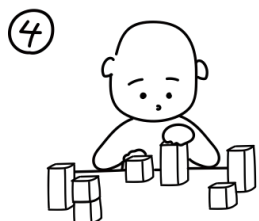
① 好きなカタチのはりこを選ぶ。



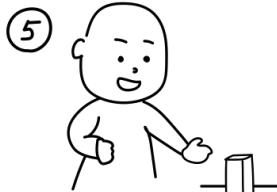
② 未来の「渋谷の街」をイメージする。



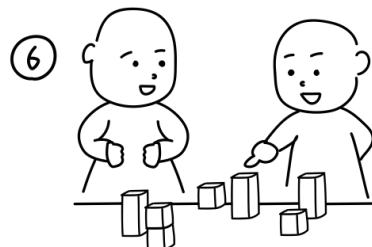
③ イメージした色付けを行う。



④ 作ったはりこを並べる。

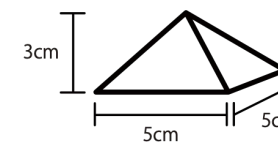
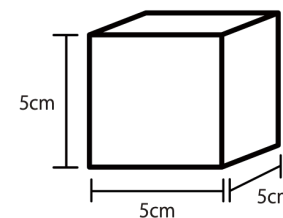
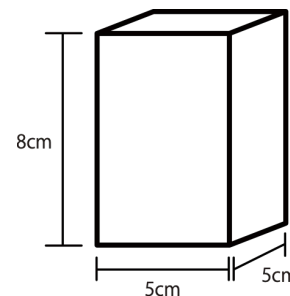


⑤ 自分の作ったはりこのビル・家を説明する。



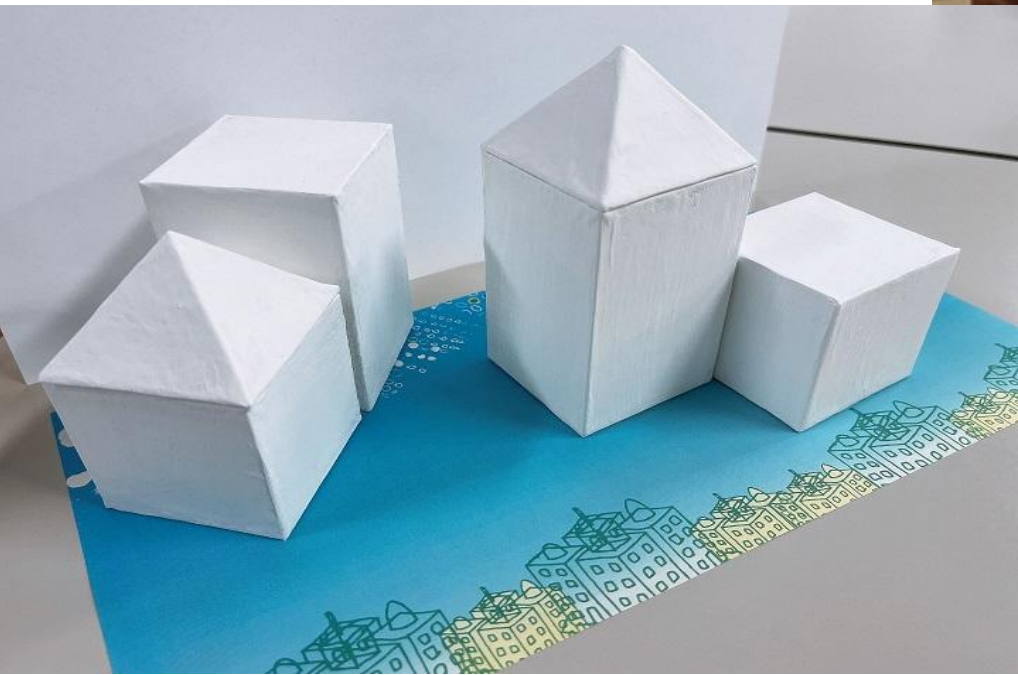
⑥ できあがった「渋谷の街」について話し合う。

使用するはりこ



* 絵付け用張り子制作: のぞみ作業所

4アートワーク内容 イメージ



<https://goodjobcenter.com/works/1459/>

4実施報告 DAY1: はりこでシブヤの町づくり詳細

2023年2月23日 13:00～15:00

参加者:しづやなかよしくるーぷ 放課後デイサービス利用者:小学生5名・中学生3名・高校生2名 計 10名

支援員・保護者9名ボランティア2名

初めての場所で緊張気味の子供たちも好きな形の張り子を選び、ビルや電車など思い思いの想像をめぐらせ筆やペンを手に取り創作開始するとみんな集中して取り組めた。参加しづらい子供には支援員さんのアイデアでモールの先に絵の具をつけてユニークな線で色付けしたり、自由な発想のもとどんどん夢中になって予定時間をオーバーしての活動となる。普段のデイでは見られない一面や予想以上の集中力を見せたりと子供たちの可能性をアートワークを通じて普段彼らと接している支援員、保護者含め参加者が実感する機会となる。



4実施報告 DAY1: はりこでシブヤの町づくり詳細

楽しいシブヤの町が完成



普段と違う場所で違う人と初めてのアートワーク満喫！



参加者コメント～なかよしグループ代表大久保氏より～

子どもたちも始めは緊張をしていますが、ワークショップに取り組む中で気持ちもほぐれて、後半はすっかり楽しんでいて笑顔が多く見られました。

ご用意いただいたワークの内容が本当に子どもたちの関心がある内容だったので、スッと創作に入れたように思います。

新しい場所で新しい人とも好きな工作を通じて関わったりつながったりまた褒めてもらったりできる事が、子どもたちにも自信になったと思います。(実際、普段は見られないような顔がたくさん見られて、スタッフも嬉しかったです)

保護者の皆さんからも「楽しかったと家でも話してました」と喜んでいただいています。

4実施報告 DAY2:シブヤフォン対話型アート鑑賞会

2023年4月4日 13:00～15:00

参加者:しづやなかよしぐるーぷ 放課後デイサービス利用者:小学生5名・中学生2名・高校生2名 計 10名

支援員・保護者 9名

シブヤフォン認定アートファシリテーター 1名(雨木)

アートコネクト大和田2回目となり、半数が前回ははりこアートワークに参加したメンバーで大和田にも慣れてきた様子の子供たち。ワークの内容は子ども達の障がい特性によりコミュニケーション力が様々(言葉で伝えられる、ジェスチャーで伝えられる、スタッフボランティアの方に手伝ってもらうなど)だったため、一人ひとりが楽しめるようにアレンジをし実施した。言葉で伝えられる子ども達には従来のワーク内容を行い、他の子にはタイトルやセリフ、ストーリーをつくってもらう代わりに絵の中の好きな個所や気になる箇所を指さしてもらう方法をとってそれぞれがワークを楽しめるように工夫した。すると、子どもたちは自分なりの伝え方で絵をみて感じたことや発見したことを積極的に伝えてくれ、同行の支援員の方々も普段は見られない行動に驚く場面が多かった。



対話型アート鑑賞がスタート!



好きな個所や気になる箇所を指さしている様子

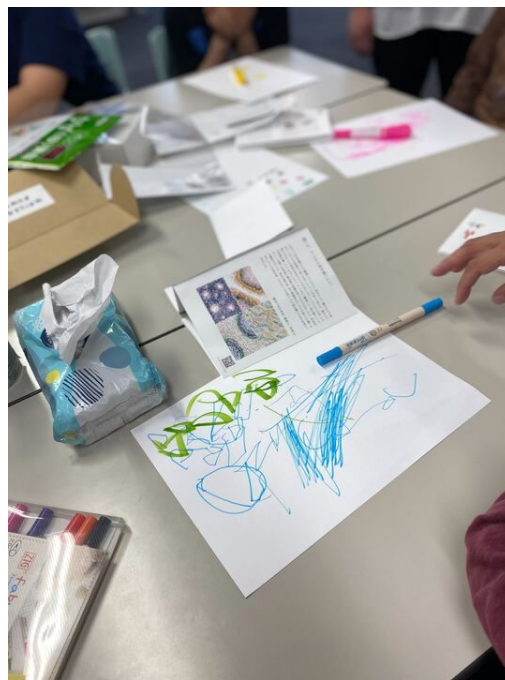


近くで鑑賞する様子

4実施報告 DAY2:シブヤフォン対話型アート鑑賞会

今回のアレンジで一番良かったのはただ、言葉やゼスチャーで対話をするだけでなく実際にテーマとなる絵を観てもらい同じように描くワークを試してみたこと。子ども達が思い思いにペンを走らせ夢中になって描いてくれた。

そのワークの中で発語のコミュニケーションが難しかった子が鑑賞会で見た3枚をミックスさせた絵を描いて自分の思いを伝えてくれました。言葉では表現できないことをアートで表現し伝えるという新たなコミュニケーションが生まれたことが参加者の大きな気づきとなり、プログラム実施の効果性を改めて実感する機会となった。



4実施報告 DAY2:シブヤフォン対話型アート鑑賞会



参加者コメント～なかよしグループ代表大久保氏より～

またまたお邪魔してお騒がせをいたしました。子どもたちにとっても支援者にとっても新鮮な体験をさせていただきました。スタッフの中で「子どもたちから思わぬ言葉が出たね」「想像した以上に関心が高かったね」と話げができました。

子どもたちの言葉やリアクションに丁寧に向き合っ拾い上げていただき感謝です。

自分としては、段々とシブヤフォントさんの事務局にも慣れてきて、自由にウロウロしたり帰りも名残惜しそうな子どもたちが印象的でした。とても楽しんでいたと思います。皆さま、ありがとうございました！

4実施報告 DAY3:大人も子供も一緒にタペストリーアート制作

2023年5月4日 13:00～15:00

参加者:しづやなかよしぐるーぷ 放課後デイサービス利用者:小学生5名・中学生2名・高校生2名 計 10名

支援員名・保護者9名

シブヤフォント参加事業所 アトリエ福花・TENTON 利用者9名・支援員・保護者4名

ボランティア 1名

5月12日～開催の<シブヤフォント笹塚アートコネクト2023>に展示するシブヤフォントのデザインを使ったタペストリーになかよしぐるーぷの子供たちとシブフォント参加事業所利用者アーティスト(障がいのある大人)との合同アート制作を試みた。



4つの柄を各2枚合計8枚のタペストリーにアクリル絵の具を使ってそれぞれ好きなデザインへの絵付けを一緒にチャレンジ。

4実施報告 DAY3:大人も子供も一緒にタペストリーアート制作

子供たちが自由に筆や素手で色付けした緑のベースに大人のアーティストたちが花や蝶などを重ねていきアートが完成！



車いすの二人も大人のアーティストに刺激を受けていつもより積極的にアートワークに参加し2種類のタペストリーを完成！

4実施報告 DAY3:大人も子供も一緒にタペストリーアート制作

障害のある子どもと大人が混ざっての初めての合同アート制作、限られた時間で完成させることができるか不安もあったが、自分の好きな色、国旗などのモチーフを加えたりしながら、アート活動を通じ手のこみゅんケーションは思いのほかスムーズでみんなで4つのデザイン、合計8枚のペストリーを見事完成させることができた。完成したタペストリーは笹塚アートコネクト2023に展示し、地域の多くの皆さん(機関内約200名来場)当事者家族、関係者に活動紹介共に見てもらうことができ、



4実施報告 完成したアートを笹塚アートコネクト2023で展示発表

～シブヤフォント大和田アートコネクト～

はりこでシブヤの街づくり

渋谷なかよしぐるーぷの子供たちと

障がいのある子供たちが通う「渋谷なかよしぐるーぷ放課後サービス」の皆さんとワークショップを行いました。

<はりこでシブヤの街づくり>

シブヤフォントのある渋谷区文化総合センター大和田に来てもらい、いつもと違う場所で初めてのアートワークにチャレンジしてくれました。また、なかよしぐるーぷの子供達は笹塚アートコネクトの会場を彩るタペストリーのアートワークにも参加してくれています。



絵付けをはじめ、あつという間に明るく楽しいシブヤの街ができあがりました。
参加の子供たち、支援員の方々、シブヤフォントスタッフ



子供たちは色々なかたちのはりこをえらんでビルや家、電車と自分の中のイメージがどんどんふくらみ、それぞれ集中して制作



ひとりひとり自分の住む街・渋谷をイメージして、立体のはりこへ自由に絵付け



5 まとめ

地域連携をテーマとした、シブヤフォントのアートをきっかけに、渋谷区の地域住民の方々に福祉施設や利用者を知ってもらい、地域交流に繋げるというアートコネクトをの活動の対象を渋谷区のご放課後デイに通う障害のある子供たちに広げた大和田アートコネクト。

シブヤフォント参加施設のアーティストは子供たちの未来でもあるが、大人向けの障がい者福祉施設と子供向けの障がい者福祉施設との交流がほとんどなく、保護者が将来わが子が通う施設がどのような活動をしているかを知る機会がないという現実がある。まず同じ地域の障がいのある子供たちとシブヤフォントでアート活動参加してもらい、交流を深め支援員、保護者に知ってもらい、シブヤフォント制作に参加施設と共にアート活動をし交流する場を作るためプログラムを設計。

当初は夏休みを中心に企画をおこなっていたがコロナの影響で開催を延期。2月～5月張り子づくり、アート鑑賞でのコミュにケーション、タペストリー合同制作という3つのプログラムで段階的に進めた。

最終的に笹塚アートコネクト2023(昨年度日本財団助成で運営した 今年度より自走、自主運営で継続開催)で作品を展示発表し、地域の皆さん、参加した子供たちの保護者も多く来場し活動や作品を見てもらい交流する機会を作ることができた。

* 笹塚アートコネクト2023 5月12日～14日 会場の一つである笹塚アキチで展示。3日間来場延べ200名来場

障がいのある子どもたちに向けたプログラムの実施は初めての試みであり、それぞれの障がい特性や、普段は家庭・学校、放課後デイでの大人との交流がない子供たちの反応な心配な面があったが、大和田の広いギャラリースペースでのアート活動やアートを使ったプログラムにより、予想以上に集中したアートワークへの参加、シブヤフォントのスタッフ、ボランティアと交流を積極的に行う子ども達の姿を見ることができた。

また大人の障がい者アーティストとの交流場面でも大人の参加者に普段施設ではみせない積極性が見えたり、それぞれの可能性を引き出す場面もあった。全体を通してトラブルはなく進めることができ、多様な人々との交流のプログラムとして有効であることが確認でき、この実績を踏まえ障がいのあるこどもとないこどもとのワークショップなど様々な交流機会プログラムとして進めてきたいと考えている。

助成終了後の自主運営にはプログラム運営経費資金調達が一つの課題だが笹塚では継続で京王不動産(株)・京王電手づ(株)が継続して場所の提供・協賛、恵比寿アートコネクトに続き三洋紙業(株)がチラシ・ポスター印刷を協賛、ボランティアも確実に増えており、さらに地元企業の協賛や参加施設・ボランティアの活躍により定着にむけ継続できる見込みである。